

平成30年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立雑賀小学校）

平成30年9月25日

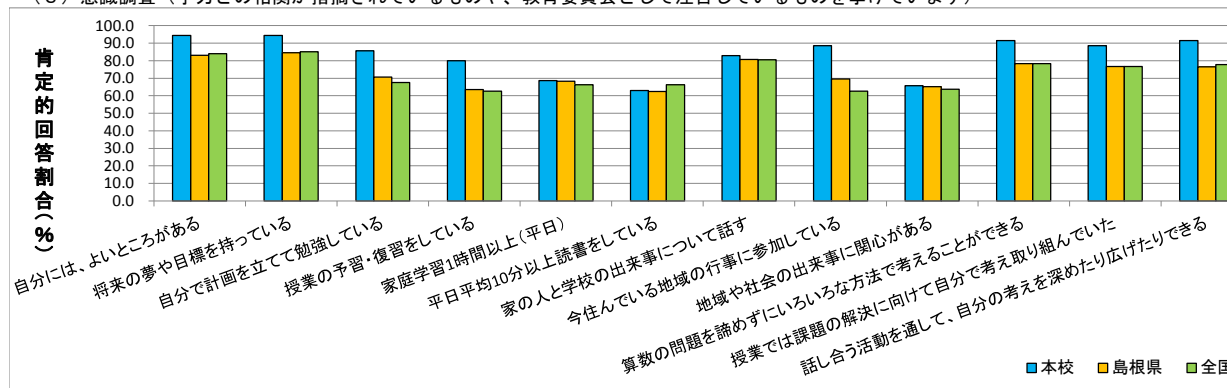
（1）学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題（○：成果，●：課題）	対 策
国語	A（基礎） ○書くこと、話すこと・聞くことの領域はよい。 ●相手や場面に応じて適切に敬語を使う問題の正答率が低い。	・学年に応じた正しい言葉遣いや敬語の使い方について、日常的に意識して指導する。 ・複数の文章や本を比べて読み、内容をより深く捉えることができるように指導する。
	B（活用） ○全領域ともよく、特に話すこと・聞くことの領域がよい。 ●目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む問題の正答率が低い。	
算数	A（基礎） ○数量や図形についての知識・理解はよい。 ●数量や図形についての技能に関する問題の正答率がやや低い。	・具体的な操作を大切にしながら指導を繰り返し行い、課題がある問題については、継続的に取り上げて理解を図るようにする。 ・図形の学習では、構成要素や性質を基に図形を観察し、自分の考えを説明する機会を増やす。
	B（活用） ○数と計算の領域はよい。 ●図形の領域の問題の正答率が低い。	
理科	○自然現象への関心・意欲・態度はよい。 ●電気の働きに関する問題、観察・実験の技能に関する問題の正答率が低い。	・観察・実験などの解決の方法を話し合ってから考える時間を十分とり、自らの課題として取り組めるようにする。 ・電流の向きと回路のつなぎ方・向きと大きさについて、関係付けながら実験できるようにする。

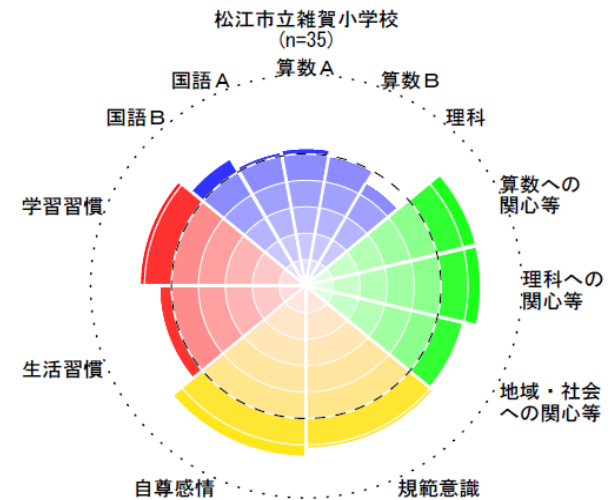
（2）生活意識調査から見られた傾向

成果と課題（○：成果，●：課題）	対 策
○話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う児童の割合は、9割以上である。 ●平日、読書を「全くしない・10分より少ない」児童の割合は県平均とほぼ同じであるが、全体の約1／3いる。	・朝読書の時間を確保し、週1回定期的に図書館活用時間を取る。 ・本校の「図書館だより」や「まつえ天神川学園図書館だより」を活用して学級で読書指導を進めていく。

（3）意識調査（学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています）



（4）学力調査及び生活意識調査から見られた傾向（破線は全国平均）



（5）その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・児童が課題を自分の問題として捉え、主体的に学習を進めていけるよう、授業内容を工夫する。
・読み書き指導の徹底と6年間の継続した語彙の獲得に向けた指導により、ことばの力を育成する。

【参考】

○平均正答率

		本 校	松江市	島根県	全国
国語	A	71	70	68	70.7
	B	59	57	55	54.7
算数	A	64	62	61	63.5
	B	50	50	49	51.5
理科		56	59	58	60.3

受検者数 35 人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示しています。